

「あいち環境づくり推進協議会」会議録

日 時：令和4年8月30日（火） 午後1時30分から午後2時40分まで

場 所：愛知県自治センター5階 研修室

出席者：構成員 12人、事務局職員 11人、傍聴者 0人

概 要：

1 開会あいさつ

水野愛知県環境局長

2 議事

(1) 第5次愛知県環境基本計画の進捗・構成員との取組事例について

資料1から3に基づき、事務局から説明を行った。出席者からの質疑等はなし。

(2) 構成員からの取組紹介

【環境教育関連の指導者養成について】

資料4に基づき、環境カウンセラー協会 会長 齊藤氏から説明があった。

(愛知県 環境局長 水野)

登録された環境教育インストラクターは、どこで確認できるのか。

(NPO 法人愛知環境カウンセラー協会 会長 齊藤氏)

環境カウンセラー全国連合会という認定団体があり、連合会のホームページで登録されたインストラクターを確認できる。

(愛知県 環境局長 水野)

ホームページを見て、登録されているインストラクターに教えてもらいたい場合、外部団体がホームページから申し込みできるのか。

(NPO 法人愛知環境カウンセラー協会 会長 齊藤氏)

ホームページから直接申し込みができるようにはなっておらず、登録されている方を確認し、環境カウンセラー全国連合会に問い合わせいただくことになる。

【愛知県の地球温暖化対策の推進について】

【あいちサーキュラーエコノミー推進プランについて】

【あいち生物多様性戦略2030の推進について】

資料5から資料7-4に基づき、事務局から説明を行った。

(愛知学長懇話会 SDGs 企画委員会 委員長 竹内氏)

資料 5 の 6 ページに枠で囲っている補助金について、県として、例えば 2030 年までに住宅用太陽光を戸建住宅の 3 割まで入れるといった目標はあるのか。

(事務局)

現在、見直し中の「あいち地球温暖化防止戦略 2030」の中で、県内のポテンシャル等を見ながらどういった目標とするかを考えているところである。

(愛知学長懇話会 SDGs 企画委員会 委員長 竹内氏)

目標があって、そのための補助金という形が良い。

市町村レベルだが、もうすでに戸建住宅の導入割合を目標にしているところがある。福島県や長野県南信や熊本県の小さな市町村などである。

愛知県としても、そういった割合を指標にすると良い。

(事務局)

検討させていただく。

(3) その他

資料 8-1 及び 8-2 に基づき、事務局から説明を行った。出席者からの質疑等はなし。

最後に、出席した構成員から会議全体を通じての意見や最近の活動状況等コメントをいただいた。

【主なコメント】

(環境省中部地方環境事務所 主査 佐藤氏)

諸外国、日本政府ともに脱炭素に向けたダイナミックな動きが出てきており、地球温暖化対策計画の目標についても、元々 2013 年度比 26%削減だったものを改正して 46%までに引き上げたところである。

こういった状況の中、愛知県のみならず自治体の方々は、実行計画の改定を余儀なくされているというところであり、どうしようといった戸惑いの声も聞いている。

我々は環境省の出先機関であるため、そういったご相談をお受けし、助言なども行っていきたいと考えている。

本日も出席の皆様には、引き続き、環境行政全般に取り組んでいただくと幸いである。

(愛知県公立高等学校長会 事務局長 加古氏)

高等学校では今年度から新教育課程が始まり、「地理」が必修になり、従来の「現代社会」に代わり「公共」という科目が新設され、環境問題を扱っている。さらに、「理科」、「保健」や「家庭」の授業でも環境問題を扱うとともに、学校祭等でも取り上げている状況である。

今後とも、本協議会を通じて環境関連の情報提供をお願いするとともに、高等学校では地域との協働活動により環境問題を考える取組を進めているのでご指導いただきたい。

(愛知県小中学校長会 副会長 都築氏)

資料の中で佐久島の写真があったが、私もかつて佐久島勤務の際に、海岸清掃に参加させていただいた。また、愛知県には、海も山も様々で豊かな自然がある地域と感じている。

小中学校では、ESD、SDGs 含めて様々な取組を行っており、各地で確実に取組が進んでいることをここでお伝えしたい。

一方で、県環境局から小中学校に何か情報提供したいということであれば、県教育委員会の義務教育課を通じて後援名義を取っていただければ、市町村の指導主事担当者会等を通じて、市町村の教育委員会に情報を流すことができる。また、県小中学校長会に、直接申し付けいただければ、各地区の代表の校長に情報を流すこともできる。

((一社) 中部経済連合会 エネルギー・環境部長 山口氏)

我々の経済委員会において、昨年度、「カーボンニュートラルの実現に向けた経済社会の変革」という提言書をまとめて1月末に公表している。

その提言を基に、サーキュラーエコノミー、循環型社会をつくっていくべきということを会員企業に呼び掛けている。

また、再生可能エネルギーを地域の自立分散型の電源として、分散型社会から持続可能な社会につなげていくことを進めている。

(愛知県商工会連合会 専務理事 伊藤氏)

連合会の会員の皆さんは、SDGs や ESD などの意識はあるが、色々なハードルがあり取組が進められていないと感じている。

まずは、県で進めている環境基本計画やサーキュラーエコノミー、生物多様性などの取組を会員の皆さんに知っていただくことができればと考えている。

また、これまでも愛知環境賞といった県の取組を連合会の組織を通じ

て事業者の皆さんへ周知を行っていると思うので、引き続き、ご協力できればと考えている。

((一社) 循環資源再生利用ネットワーク 専務理事 山本氏)

我々は、明日(8月31日)に、サーキュラーエコノミーをテーマとしたセミナーを開催予定である。

また、全国に先駆けて、愛知県がサーキュラーエコノミー推進プランを策定し、循環型社会を先導する意義は大変大きいと感じている。

ただ、時間的に、今以上にピッチを上げて取り組まなければならない課題であるとも感じている。

本日、説明いただいたサーキュラーエコノミー推進プランの内容については、循環資源再生利用ネットワークの会員と実行に移していけるよう、県とも相談しながら、取組を具体化できればと考えている。

(愛知県青少年団体連絡協議会 会長 花岡氏)

私どもは子供や青少年の集まりであり、環境について考えるというよりも、皆様が作成した色々な教材やアイデアを子供たちが実際に体験を通して学び、その体験を大人になって家族にも伝えていくということに力を入れている。

ガールスカウト愛知県連盟の取組では、小学生を対象に海の環境と山の環境の繋がりが分かるようなプログラムを組み、子供たちが楽しく学びながら、自らがどうしたらいいかを考える教育を行っている。

これからも連絡協議会に加盟する12団体で連携して取組を進めていく。

(NPO 法人愛知環境カウンセラー協会 会長 齊藤氏)

当協会は、まず県の生態系ネットワークの取組で、知多半島、尾張西部、東部丘陵の協議会に加盟している。

そして、三河湾については、10年前に県が立ち上げた「三河湾環境再生プロジェクト」に立ち上げ当初から参画しており、10月の「三河湾大感謝祭」では、ブース出展を行うこととしている。

また、「SDGs AICHI EXPO」にも実行委員会の委員として参画させていただき、ブース出展も行っている。

こういった取組を通して、環境基本計画の進捗に貢献できればと考えている。

((一社) 環境創造研究センター 専務理事 清本氏)

私どもは、愛知県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受けており、県の温暖化防止対策の一助を果たしている。

特に、「あいち COOL CHOICE」県民運動では、ここ2、3年「夏休み！おうちでエコアップ大作戦」ということで、県内の小学校の皆さんに、エコに関する行動を家族と一緒に実践していただくという運動を展開している。また、「ストップ温暖化教室」として、県内の小学校、放課後教室の出前講座の事務局も担当している。

一方、温対法の改正により、今年度から地球温暖化防止活動推進センターの新しい役割として、事業者向けの普及啓発が加わり、中小企業の皆様にも温暖化防止のための普及啓発を進めている。

特に、事業者の皆様からは、我が社のエネルギーの見える化や、省エネ診断をして欲しいというニーズが非常に高くなっており、県内の企業が大きく脱炭素に舵を切っている流れが感じられる。

今後も個々の事情に応じて、地道に省エネ活動を普及していくべきと感じている。

(愛知学長懇話会 SDGs 企画委員会 委員長 竹内氏)

大学では、教育、研究、社会連携・地域連携ということが、主な仕事になるが、環境教育については、ESD、SDGs と合わせて学長懇話会のメンバーである各大学の学長さんは非常に高い関心を持って取り組んでいる。

一方、地域連携については、各大学が立地する地域との持続可能な地域づくりを行っていきたいという構想はあるが、まだ具体的なプロジェクトにはなっていないため、今後、考えていきたい。

以上